



【発行所】  
**中友会**  
 港区西新橋1-22-13  
 全日本中学校長会館202号室  
 東京都中学校長会事務局内  
 TEL 03-3504-8705  
 FAX 03-3504-8706



<https://chuyu-kai.org/index.html>



### 中友会の発展を願って

中友会副会長 古澤 壽朗

会報121号が皆さんのところに届くころ、新型コロナの状況はどうなっているのでしょうか。恐ろしい感染症という今までの概念から現在ではきちんと予防をしていれば、全員が恐れることもないという状況に変わってきているように思います。「正しく理解し、正しく恐れる」ということでしょ

か。昨年の11月〜12月にかけて、サッカーのワールドカップがありました。新型コロナの流行やロシアによるウクライナ侵攻の中で、日本チームの「ドーハの悲劇」を「ドーハの歓喜」に変える活躍で日本中が熱狂しました。今年はどうなる年になるでしょうか。平和な世界になることを願わずにはいられません。

私は中友会の発展を願うとともに、私と中友会の関わりをこれまでを振り返り、さらにこれからを考えます。

#### 中友会との関わり

中友会は今から55年前に発足しました。退職した校長先生方は共に体験した楽しみや苦しみの想いを共有した人として同じ組織に入るといふ仲間意識が強かったのではないかと考えます。みんな

が仲間だという共通の意識を持ち、退職後もお互いを高めあう生涯学習の場としてまた、親睦を深める場として中友会の中に研修担当を置いたものと思います。

私は幹事、幹事長、副会長をやりながら中友会と関わってきました。私が中友会に入ったときは退職された2年先輩の6名の幹事の先生方が中友会の方針、合祀慰霊祭、名簿の作成、総会、忘年会・研修会などです。私たちの代では、人数は減ったものの年間行事を実施することができました。しかし、私の一つ下の代あたりから様子が変わってきました。中学校でも任用制度の変わり目にあたり再任用校長が増えたため退職時に幹事をやってくれる人が3名、2名と減少していったのです。現在では1名入ってくれたらよいほうで、0名の年もあるのです。今後の中友会の運営を考えると、皆さんに現状を理解していただきたいのです。

現在の組織の運営は人数的に厳しいのですが、一度幹事を卒業した方が再び幹事をやってくれたり新しい方が幹事になってくれたりと、少数ではありますがありますが会長以下力を合わせて運営していま

す。今は、中友会の組織を存続し少しでもよりよく発展させるためにはどうしたらよいかを考えてはいますが、大きな変革の時を迎えているように思います。

#### 研修担当として

現在、中友会の会報には「会員の窓」という欄があります。皆さんの現在の生活や現状を紹介しています。この欄では友人や知人から元気をいただいたり、懐かしんだりすることが出来ます。このような試みをさらに増やして、多くの人が参加できる中友会にしたいと考えています。

コロナ禍の中、3月に3年ぶりとなる「1日研修」を企画しています。多くの方の参加を期待いたします。新型コロナウイルス感染予防の観点から様々な制限がありますので全員での会食はありませんが久しぶりに外出する機会になればと思います。

今後は少しでも多くの人が参加できるような研修会を目指したいと考えています。皆様に参加していただくためには生涯学習の見地からどんな研修ができるのか。親睦を深める研修とはどんな研修が考えられるのか。年齢を超えて皆さんの交流の機会を提案できるようにしたいものです。個人の事情・体力・気力も含めてさまざまな条件があります。この課題は非常に困難な課題ですが少しでも実現に近づける努力が必要だと思っています。

約1900名の組織である中友会には会長・副会長・幹事だけではどうにもできないことがあります。そのため会員の皆様の協力がどうしても必要です。皆様は東京都公立中学校の校長を経験した仲間です。皆様が中友会の活動に関心を持ち応援し参加して下さることを心より願っています。そのことが充実した中友会の活動に繋がると確信しています。

どうぞよろしく願っています。